

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|----------------------------------|----|------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 266 号 | 氏名 | 吉田 亮 |
| 学位審査委員 | 主査 松山 俊文 副査 関根 一郎 副査 大園 恵幸 | | |
| 論文審査の結果の要旨 | | | |
| <p>1. 研究目的の評価</p> <p>H. pylori 感染による胃炎 (H. pylori-associated gastritis: HAG) において種々の炎症性サイトカインやケモカインの関与が示唆されるようになってきた。本研究は免疫、炎症反応に重要な樹状細胞の遊走作用を持つケモカインである CCL20 の発現について検討しようとしたものであり目的は十分に妥当である。</p> | | | |
| <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>対象は腹部不快感にて来院し上部消化管内視鏡検査を施行した 82 例(うち 42 例は H. pylori (+) 42 例は H. pylori (-)) である。CCL20 などの関連ケモカイン、受容体の発現について RT-PCR と免疫組織染色を行い検討した。H. pylori の影響をみるために除菌前、除菌後における CCL20 発現のタンパク質レベルでの検討を行った。さらに <i>in vitro</i> で H. pylori の変異株を使った感染実験を行い、CCL20 発現への責任遺伝子領域の解析を行った。これらの研究手法は目的に沿った妥当なものである。</p> | | | |
| <p>3. 解析・考察の評価</p> <p>本研究から CCL20/CCR6 の系が HAG に関与している可能性が明らかにされた。これらの研究は今後の発展が大いに期待できる成果であり審査員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p> | | | |